第６回公認心理師国家試験

分析速報

2023 年 5 月 18 日　河合塾 KALS

2023 年 5 月 14 日（日曜日）に，第６回公認心理師国家試験が行われた。本資料では，第６回公認心理師国家試験の出題形式・出題内容・問題の難易度等を，過去の公認心理師国家試験と比較しながら徹底分析する。

１．基本情報

➢ **試験時間・問題数は，第５回までを踏襲。**

・午前の部（10 時～12 時），午後の部（13 時半～15 時半）各 120 分の２部構成。

・第５回試験までは，マークシート用紙は塗りつぶす①～⑤が横にならんでいる用紙 A と①～⑤が縦にならんでいる用紙 B のいずれかが渡されていた。しかし今回の第６回試験は，塗りつぶす①～⑤が横にならんでいる用紙に統一された。

・多くの試験会場で，試験開始 60 分後から終了 10 分前までは途中退室可。ただし，試験開始時間の遅れなど，試験会場や状況によっては途中退室ができない場合もある。

➢ 解答形式は，**５肢択一**（５つの選択肢から１つを選ぶ形式），**４肢択一**（４つの選択肢から１つを選ぶ形式），**５肢択二**（５つの選択肢から２つを選ぶ形式）の３種類。５肢択二問題は，選んだ２つの選択肢が両方とも正解していなければ得点にならない。第６回試験は例年と比較して，４肢択一・５肢択二の問題数が少なかった。

表１　解答形式比較

	第２回試験	第３回試験	第４回試験	第５回試験	第６回試験
５肢択一	116 題	114 題	124 題	119 題	123 題
４肢択一	14 題	19 題	18 題	14 題	13 題
５肢択二	24 題	21 題	12 題	21 題	18 題

（第１回試験は省略。以下全ての表にて同様）

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

- 不適切な選択肢を選ぶ問題が，特定の番号帯に固めて配置されている点も第 5 回試験までと同様。例えば，第 6 回試験の午前問題の 41 番～47 番は，すべて不適切な内容の選択肢を選ぶ問題である。さらに「不適切なものを選びなさい」と問題文に下線が引いてある点も第 5 回試験までと同様。問題数は以下の表 2 の通り。第 5 回試験から不適切な選択肢を選ぶ問題は減少傾向にあり，今回の第 6 回試験では不適切な選択肢を選ぶ問題が 21 題と，これまでの公認心理師試験の中で最も少ない出題数であった。

表 2　選択内容比較

	第 2 回試験	第 3 回試験	第 4 回試験	第 5 回試験	第 6 回試験
適切選択	123 題	115 題	115 題	127 題	133 題
不適切選択	31 題	39 題	39 題	27 題	21 題

※適切選択…「正しいものを選びなさい」「最も適切なものを選びなさい」などの形式。
※不適切選択…「誤っているものを選びなさい」「最も不適切なものを選びなさい」などの形式。

- 午前・午後ともに一般問題 58 題のあとに 19 題の事例問題という構成。つまり，一般問題は午前と午後合わせて 58× 2 ＝116 題，事例問題は午前と午後合わせて 19× 2 ＝ 38 題となる。 1 つ 1 つの事例の文章の長さは 10 行前後。

表 3　一般問題・事例問題比較

	第 2 回試験	第 3 回試験	第 4 回試験	第 5 回試験	第 6 回試験
一般問題	116 題	116 題	116 題	116 題	116 題
事例問題	38 題	38 題	38 題	38 題	38 題

- 第 6 回試験の配点予想は表 4 の通り。第 5 回までと同様に一般問題 1 点・事例問題 3 点という配点ならば 230 点満点となる。なお合格ラインは総得点の 60%程度と日本心理研修センターから発表されており，第 3 回試験までが 138 点（60%），第 4 回試験は 143 点（62.2%），第 5 回試験は 135 点（58.7%）であった。

表 4　予想配点

	配点	問題数	総得点
一般問題	1 点	116 題	116 点
事例問題	3 点	38 題	114 点
合計	―	154 題	230 点

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

2．ブループリントとの対応（1）

第６回試験の全ての問題について，どの大項目に相当するか判定し，まとめたものが以下の表５である（各問題の判定は，巻末資料を参照）。

表５　ブループリント大項目の分類比較

	内容	出題数	公表出題数	比較
①	公認心理師としての職責の自覚			
②	問題解決能力と生涯学習			
③	多職種連携・地域連携	8 題	9.2 題　(6%)	▲ 1.2
④	心理学・臨床心理学の全体像	3 題	4.6 題　(3%)	▲ 1.6
⑤	心理学における研究	4 題	3.1 題　(2%)	△ 0.9
⑥	心理学に関する実験	2 題	3.1 題　(2%)	▲ 1.1
⑦	知覚及び認知	4 題	3.1 題　(2%)	△ 0.9
⑧	学習及び言語	3 題	3.1 題　(2%)	▲ 0.1
⑨	感情及び人格	4 題	3.1 題　(2%)	△ 0.9
⑩	脳・神経の働き	3 題	3.1 題　(2%)	▲ 0.1
⑪	社会及び集団に関する心理学	5 題	3.1 題　(2%)	△ 1.9
⑫	発達	7 題	7.7 題　(5%)	▲ 0.7
⑬	障害者（児）の心理学	2 題	4.6 題　(3%)	▲ 2.6
⑭	心理状態の観察及び結果の分析	12 題	12.3 題　(8%)	▲ 0.3
⑮	心理に関する支援	14 題	13.9 題　(9%)	△ 0.1
⑯	健康・医療に関する心理学	10 題	13.9 題　(9%)	▲ 3.9
⑰	福祉に関する心理学	11 題	13.9 題　(9%)	▲ 2.9
⑱	教育に関する心理学	16 題	13.9 題　(9%)	△ 2.1
⑲	司法・犯罪に関する心理学	7 題	7.7 題　(5%)	▲ 0.7
⑳	産業・組織に関する心理学	7 題	7.7 題　(5%)	▲ 0.7
㉑	人体の構造と機能及び疾病	7 題	6.2 題　(4%)	△ 0.8
㉒	精神疾患とその治療	12 題	7.7 題　(5%)	△ 4.3
㉓	公認心理師に関係する制度	12 題	9.2 題　(6%)	△ 2.8
㉔	その他	1 題	3.1 題　(2%)	▲ 2.1

※各問題がどの大項目に相当するかに関する判定については，河合塾 KALS 独自の判定であり，日本心理研修センターより発表されたものではない。複数の領域にまたがる問題は，問題の並びやブループリントに記載のキーワードが問題文や選択肢文中にあるか否かを判定基準とした。
※「比較」については，出題数と公表出題数の差が 2.5%以上離れている部分に色を付けた。

©2023 KEI Advanced, Inc.　無断転載転用禁止

まず今年は，公認心理師試験で初めて出題割合の変更があった。具体的には**「大項目①～③ 公認心理師の職責」**が９％から**６％**に，**「大項目⑮　心理に関する支援」**が６％から**９％**にそれぞれ変更になったことが，第６回試験のブループリント公表時に明らかになった。そして実際に行われた第６回試験においては，変更された出題割合が反映された形で出題されていた。それは，従来の試験と比較して「公認心理師の職責」に関する問題は減り，「心理に関する支援」に関する問題は増えたことを意味する。

では**「大項目⑮　心理に関する支援」**において，どのような問題が増えたのだろうか。それは従来の公認心理師試験ではほとんど出題の無かった，**精神分析的アプローチ**に関係する問題である。具体的には問 19 で対象関係論に関する問題が，問 63 では事例に該当する精神分析学の用語を答える問題が，問 100 では問題文の内容に当てはまる防衛機制の名称を答えさせる問題が，それぞれ出題された。とはいえ，今回出題された問題はいずれも精神分析的アプローチの中では基礎的な内容であったため，出題を予期していなかった受験生も動揺は少なかったと思われる。

従来の公認心理師試験対策において，精神分析的アプローチの優先度が高いとは言えなかったが，この考え方は過去のものになるかもしれない。

次に**「大項目㉒　精神疾患とその治療」**に注目したい。ここでは公表出題数 7.7 題に対して 12 題の出題と，出題数の多さが目立った。これは，後の分析でも触れるが「DSM-5 に基づく病態の理解として，最も適切なものを１つ選べ」という教示のもと，事例文にあてはまる障害・疾患名を答える問題が多数あったためである。

事例文に該当する障害・疾患名を答える問題は一律に大項目㉒として分類したため，本来は大項目⑬や⑯，⑰として作成された問題も，本分析では大項目㉒にあてがわれた可能性がある。なおこれは「大項目㉓　公認心理師に関係する制度」も同様で，本来は別の大項目として作成された問題も，問題の主体が法律であるが故に，大項目㉓として分類されている可能性が十分にある。

以上の点を加味すると，第６回試験もまた従来の公認心理師試験と同様に，ブループリントで公表されている出題割合に沿う形で試験が作られていた，と考えることができるだろう。

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

３．ブループリントとの対応（２）

第５回試験においてはブループリントの変更はほとんど無かったが，第６回試験においては，大幅にブループリントのキーワードの追加・変更が行われた。では，この追加となったキーワードはどの程度，試験に出題されていたのだろうか。以下の表６は，ブループリントの追加キーワードの出題をまとめたものである。

表６　ブループリント追加キーワードの出題

番号	キーワード名
問 10	拡張―形成理論
問 15	社会情動的選択性理論
問 46	人的資源管理
問 51	教職員のメンタルヘルス
問 84	自伝的記憶
問 103	リービングケア（試験では類語の「アドミッションケア」「インケア」が出題）
問 142	妊娠・出産・育児

追加キーワードの内容を含んだ問題は，決して多いとは言えないが，全く出題されていないわけでもない，といったところだろうか。なお，第４回試験のブループリントで追加された「エイジズム」というキーワードが，今回の試験の問 138 で初めて出題されていたように，今回追加されたキーワードが仮に今回の試験で出題されなかったとしても，今後の試験で出題される可能性は十分にある。

公認心理師試験に向けた学びの基本は過去問であり，過去問をしっかり解くこと（＝正解の選択肢だけでなく，全ての選択肢を吟味すること）で，ブループリントの大部分のキーワードは網羅できる。あとはそこに，新規追加キーワードを＋αという形で補填していけば，合格に必要な力は十分に身に付くであろう。新規追加キーワードは，他のキーワードと比較すれば出題される確率は高いが，出題されない可能性も十分にある。あくまで＋αの扱いであり，学びの軸は**過去問**である点に注意したい。

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

４．問題の難易度（総論）

第６回試験の各設問の難易度を以下の３段階で判定した。なお，この判定基準および，各設問の難易度の判定は河合塾 KALS 独自のものであり，日本心理研修センターが発表したものではない。

- ✧ 難易度Ａ…５つの中から完全にランダムで選ばざるを得ない難問。
- ✧ 難易度Ｂ…正解の選択肢を２つまたは３つまで絞り込むことが出来る問題。
- ✧ 難易度Ｃ…比較的正解を１つに絞り込みやすい問題。

※上記の基準で難易度判定をしているため，キーワードとして難しい内容であったとしても明らかに不正解の選択肢を除外して２択（３択）で勝負できるなら難易度Ｂ，選択肢の中に難しい内容があったとしても，明らかに正しいと判断できる選択肢が１つあるならば難易度 C と判定している。

以上の基準で第６回試験全 154 題の判定を行った。その集計結果が以下の表７である（各問題の難易度判定については本資料の巻末参照）。

表７　問題の難易度（第６回試験）

難易度	午前	午後	全体
A	9 題 11.7%	7 題 9.1%	16 題 10.4%
B	37 題 48.1%	41 題 53.2%	78 題 50.6%
C	31 題 40.3%	29 題 37.7%	60 題 39.0%

受験生の試験後の感想として「午前の方が難しかった」「午後の方が難しかった」と，どちらの感想もみられた。

午前は問７（時間知覚），問８（色覚多様性）と難易度Ａ問題が続く部分があり，試験開始後の緊張感も重なって，全体としての印象が難しくなったのかもしれない。午後については，試験の終盤で難易度Ｂの事例問題が続いたことが影響しているだろう。終盤は，確信を持って回答可能な問題が少なく，試験の疲れも重なって，苦しい時間になった受験生もいるだろう。とはいえ午前と午後の違いは個人差であり，データからも分かるように，午前と午後の難易度差はほとんどないと言える。

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

次に，一般問題と事例問題の難易度を以下の表８で比較する。

表８　一般問題と事例問題の難易度比較（第６回試験）

難易度	一般	事例	全体
A	16 題 13.8%	0 題 0.0%	16 題 10.4%
B	57 題 49.1%	21 題 55.3%	78 題 50.6%
C	43 題 37.1%	17 題 44.7%	60 題 39.0%

第６回試験の事例問題について，Ｃ問題が 44.7%と多いように見えるが，実は事例問題のＣ問題は年を追うごとに減少している。以下の表９に，事例問題だけの難易度比較を挙げた。第４回・第５回試験と比較して，第６回試験では事例問題の Ｃ 問題が減り，Ｂ問題が増えている。そのため，事例で点数が稼ぎづらくなっていることが分かるだろう。

表９　事例問題の難易度比較（第４回～第６回）

難易度	第４回	第５回	第６回
A	2 題 5.3%	4 題 10.5%	0 題 0.0%
B	12 題 31.6%	13 題 34.2%	21 題 55.3%
C	24 題 63.2%	21 題 55.3%	17 題 44.7%

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

なお，第５回試験では，第４回試験と比較して「事例問題の行数」が増えたために，事例を読むのに時間がかかる，という報告が多かった。では，今回の第６回試験ではどうだったのだろうか。以下の図１は，第４回試験～第６回試験で「事例問題の行数」を比較したものである。（なお，事例問題の行数は，事例文＋問題文でカウントしており，選択肢の行数はカウントしていない）

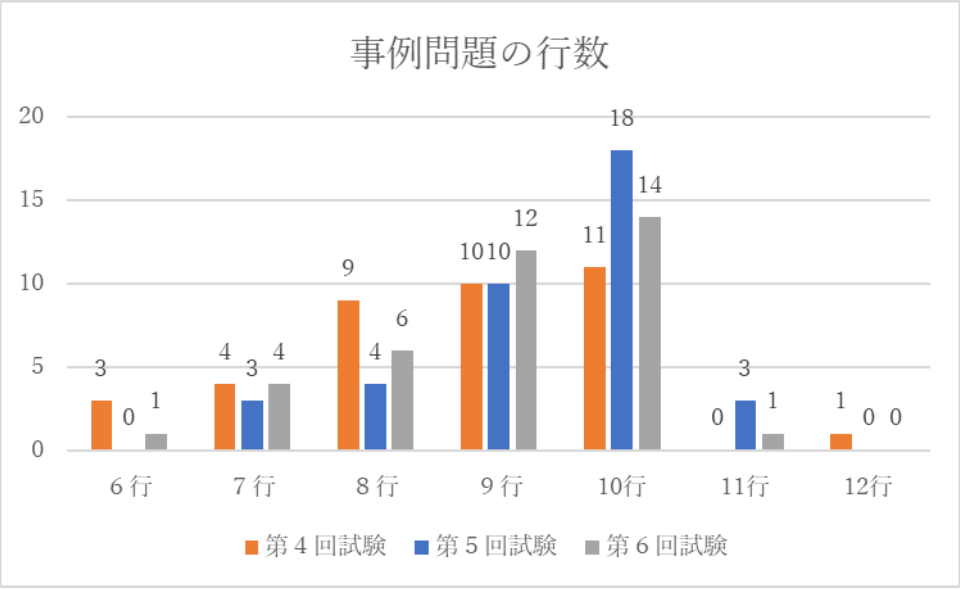

図１　事例問題の行数（第４回試験～第６回試験の比較）
※グラフ上部の値は出題数

上図から，第６回試験の事例問題は，第５回ほどではないが，第４回よりは文章量が多かったことが見えてくるだろう。文章量が多いということは，情報量が多いということでもあり，解くのに時間がかかる，ということでもある。公認心理師試験は「事例問題で稼ぐことが重要」と言われていたが，今回の第６回試験は，難易度・文章量ともに，事例問題で点数を稼ぐことがやや難しかったと言えるだろう。

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

次に，以下の設定で行った得点シミュレーションを紹介する。

・第 6 回試験の配点を従来と同様，一般問題 1 点・事例問題 3 点と想定。

・難易度 A 問題は，正解率 20%（多くが五肢択一のため，正解率 5 分の 1 と想定）
難易度 B 問題は，正解率 50%（選択肢を 2 つまで絞り込めたと想定）
難易度 C 問題は，正解率 80%（ミスしなければ正解できると想定）とする。

表 10　第 6 回試験得点シミュレーション

種別	難易度	第 6 回試験	
		問題数	予想得点
一般問題（1 点）	A（×0.2）	16 題	3.2 点
	B（×0.5）	57 題	28.5 点
	C（×0.8）	43 題	34.4 点
事例問題（3 点）	A（×0.2）	0 題	0.0 点
	B（×0.5）	21 題	31.5 点
	C（×0.8）	17 題	40.8 点
予想得点			138.4 点

表 10 によれば，第 6 回試験において難易度 C 問題を確実に得点し，難易度 B 問題を二択まで絞り込めれば，難易度 A 問題が完全に運任せでも 138.4 点となる。合格ラインを 138 点（60%）と考えた場合，何とか合格ラインに届く事になる。難易度 C 問題をより確実に得点し，難易度 B 問題で二択に絞り込んだ後の正解率を 50%以上に上げることができれば，より安定して合格ラインに乗ることができるだろう。

よって，難易度 A 問題ではなく，難易度 B 問題・難易度 C 問題でいかに得点を稼ぐことができるかが，合格の決め手になる。これは，第 5 回試験までと変わらず，公認心理師試験に一貫した特徴と言える。

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

5．問題の難易度（各回比較）

次に，第 6 回試験の難易度を，第 5 回試験までと比較した。それが以下の表 11 である。また，難易度の推移をグラフに表したものが図 2 である。

表 11　各回別の難易度比較

難易度	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回
A	25 題 16.2%	26 題 16.9%	23 題 14.9%	23 題 14.9%	16 題 10.4%
B	67 題 43.5%	66 題 42.9%	60 題 39.0%	70 題 45.5%	78 題 50.6%
C	62 題 40.3%	62 題 40.3%	71 題 46.1%	61 題 39.6%	60 題 39.0%

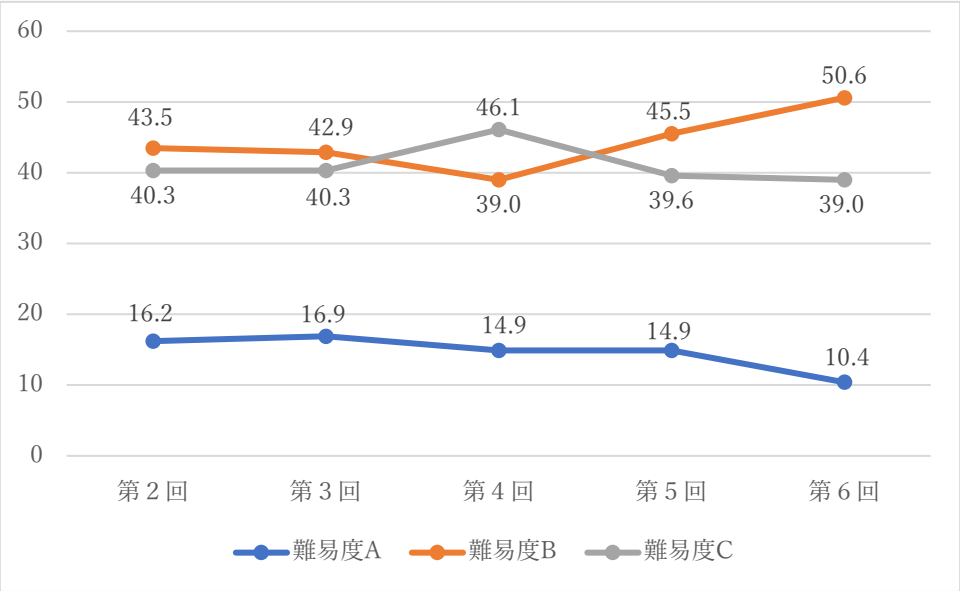

図 2　公認心理師試験　各回の難易度推移

難易度 B 問題は過去の試験と比較して最も多くなり，そして難易度 A 問題は過去の試験と比較して最も少ない出題数になった。第 6 回試験は，過去問と比較して「手も足も出ない問題ばかり」と感じることは少なかったのではないだろうか。もちろん，神経・生理に関する問題や法律・制度に関する問題など難問が多い分野もある。しかし，日常生活や一般常識と照らし合わせることで，ある程度絞り込める問題も多く，本分析において難易度評定をしていく際も，「知らなくても何とかなる可能性」を加味して A 問題ではなく B 問題と判定した問題が，例年よりも多かった印象である。

©2023 KEI Advanced, Inc.　無断転載転用禁止

例えば，以下の問 33 を見てみよう。

問 33　発熱時に起こる身体の変化として，最も適切なものを 1 つ選べ。
①　呼吸数の減少　②　心拍数の減少　③　基礎代謝量の低下
④　消化液分泌の抑制　⑤　タンパク質分解の抑制

この問題について，例え発熱に伴う身体の変化に関する医学的な知識を持ち合わせていなくても，熱を出した時の自分を想像して，呼吸が乱れて鼓動を強く感じることから①や②を除外したり，食べ物が食べられなくなり消化に良い食べ物を欲することから，正解である④を選択したり…といったことが可能である。

このように，「運任せに 5 つの中から 1 つを選ぶしかない難易度Ａ問題」は，これまでの公認心理師試験と比較して減少した。そして，これまでの知識と経験をもって，精緻に考えることで正解に辿り着ける問題が増えたと言えるだろう。

裏を返せば，精緻に考えなければ正解に辿り着けない問題が増えた，ということでもある。以下の問 71 を見てみよう。

問 71　21 歳の女性Ａ，大学 3 年生。Ａは，同居中の 19 歳の妹Ｂに連れられて総合病院精神科を訪れた。（中略）両親は遠方に在住していており，この時点で連絡がつかない。
Ａを入院させる場合の入院形態として，最も適切なものを 1 つ選べ。
①　応急入院　②　措置入院　③　任意入院
④　医療保護入院　⑤　緊急措置入院

精神保健福祉法に基づく精神科病棟の入院形態に関する問題は，公認心理師試験で頻出である。そして，両親に連絡がつかないという事例文から，家族等の同意が取れないと判断し「①応急入院」と反射的に選択した者が多かったと思われる。しかし，本事例は「19 歳」の妹Ｂに注目しなければならない。2022 年の民法改正に伴い 19 歳は成人扱いとなったため，妹Ｂは，医療保護入院の「家族等の同意」の対象となり得る。よって今回は「④医療保護入院」が正解と考えられる。

この問 71 のように第 6 回試験では，反射的に答えを選ぶのではなく，問題文を丁寧に読み込み，精緻に考えなければ正解に辿り着けない問題が多くなった印象がある。そして，この傾向は第 5 回試験から続いている。もはや公認心理師試験は，反射的に捨て問を選んでいくだけの試験でもなければ，記憶しておいたキーワードを反射的に選んでいくだけの試験でもない。一見解けなさそう内容でも，知識と経験をもとに，正解を手繰り寄せていく。すでに知っている内容であっても，油断せずに丁寧に吟味する。そのような「考える力」が問われるようになったと言えるだろう。

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

もちろん，すべての問題で「考える力」が問われているわけではない。反射的に捨て問にすべき問題や，反射的に正解を選べる問題も，もちろん存在する。これは試験としてのバランス上，当然のことと言っても良いだろう。

次に 9 ページで行なっている得点シミュレーションについて，各回を比較した。それが以下の表 12 である。

表 12　得点シミュレーション 各回比較

	第 2 回試験	第 3 回試験	第 4 回試験	第 5 回試験	第 6 回試験
予想得点	138.7 点	139.6 点	142.6 点	136.6 点	138.4 点

※予想得点…一般問題 1 点，事例問題 3 点とし，難易度 A 問題を 2 割，B 問題を 5 割，C 問題を 8 割正解していた場合の得点のこと。算出方法の詳細は本資料 9 ページを参照。

第 6 回試験は，難易度 A 問題が少なく，解いている途中で焦ったり混乱したりすることが少ない試験で，実感としては例年よりも解きやすかったように思えるが，難易度 B 問題の増加や，事例問題がやや解きにくくなったこともあり，得点シミュレーションの結果は例年とほぼ同程度になった。このことから，今回の試験においては，合格ラインは例年通り 138 点（60%）になるのではないかと予想される。（もちろん実際にどうなるかは，合格発表の日までわからない）

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

6．出題分野別の講評

第 6 回公認心理師試験について「心理検査」「介入・技法」「障害・疾患・症状」「法律・制度・施設」の 4 つの観点から，多く出題されたキーワードの紹介と共に分野別の講評を述べる。

※注　出題回数のカウント方法
問題文（事例文や注意書き含む），選択肢中に記載されたキーワードを集計。1 つの問題に同じキーワードが複数回あった場合は，1 つとカウントする。例えば問題文中に「抑うつ」とあり，同じ問題の選択肢に「抑うつ」とあったとしても，1 つとしてカウントする。異なる問題，異なるキーワードであれば区別してカウントする。

A. 心理検査に関する出題

心理検査は，大項目⑭に該当する。以下の表 13 は，問題文・選択肢中に心理検査の名称が示された回数である。回数のカウント方法は，上記注を参照。例えば，第 6 回試験の問 17 は，①ADI-R，②Conners3，③KABC-II，④M-CHAT，⑤WISC-IV と選択肢に 5 種類の検査名が示されているため「5 回」とカウントしている。

表 13　問題文・選択肢中に心理検査の名称が示された回数

第 2 回試験	第 3 回試験	第 4 回試験	第 5 回試験	第 6 回試験
50 回	21 回	16 回	31 回	48 回

次に，第 6 回試験で出題された心理検査をまとめた表が，以下の表 14 である。

表 14　第 6 回試験で出題された心理検査

回数	検査名
3 回	Y-BOCS
2 回	WISC-IV, HDS-R, KABC-II, CAPS, M-CHAT, SDS
1 回	BDI-II, WAIS-IV, MMPI, 田中ビネー知能検査, MMSE, IES-R, CAARS, LSAS-J, MAS, STAI, TEG, 新版 K 式発達検査, HAM-D，WMS-R，WPPSI-Ⅲ，ウェクスラー式知能検査，ADOS-II，BADS，Conners3，PARS-TR，POMS，SLTA，グッドイナフ人物画検査，遠城寺式乳幼児分析的発達検査，GDS，S-M 社会生活能力検査，NEO-FFI，EQ-5D，K6，A-DES，TSCC，PDSS，YMRS

※太字の検査は，今回の試験も含め，累計 3 回以上の出題となる検査。
※色がついている検査は，今回の試験で初出となった検査。

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

表 13 を見ると, 明らかに第 6 回試験においては心理検査の出題が多かったことがわかる。過去最多出題数であった第 2 回試験に迫る勢いである。

しかし，その出題のされ方は第 2 回試験とは大きく異なる。第 2 回試験においては，**カットオフ値**（何点以上，あるいは何点以下は困難を持っているとみなすか）に関する出題や，検査の**対象年齢**に関する出題が多かった。そのため, 第 2 回試験以降, 心理検査の対策は「カットオフ値を覚える」「対象年齢を覚える」という点が重視されることになった。しかし，公認心理師試験の受験生で，カットオフ値や対象年齢を覚えようとした人は納得してもらえると思うのだが，この勉強はあまりに負担が多く，あまりに果てがない。非常に受験生に負担を強いる内容だった。

だが，公認心理師試験は回を重ねるごとに，カットオフ値や対象年齢に関する問題は激減し，大半は以下の問題のように「臨床像から該当する心理検査を選択する」ことが求められている。

> 問 17　自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害〈ASD〉の診断用評価尺度として，最も適切なものを 1 つ選べ。
>
> ①　ADI-R　　②　Conners3　　③　KABC- II　　④　M-CHAT　　⑤　WISC-IV

また，以下の問 139 は「カットオフ値の時代の終わり」を告げる問題と言えるだろう。

> 問 139　18 歳の男性 A，医療系大学の 1 年生。（中略）アセスメントとして実施した心理検査の結果は、Y-BOCS が基準以下の重症度で，MAS が基準以上の重症度であった。
>
> DSM-5 に基づく A の病態の理解として，最も適切なものを 1 つ選べ。
>
> ①　統合失調症　　②　限局性恐怖症　　③　強迫症／強迫性障害
>
> ④　パニック症／パニック障害　　⑤　社交不安症／社交不安障害(社交恐怖)
>
> （下線は，本分析によるもの）

もはや Y-BOCS や MAS のスコアは示されていない。それよりも，Y-BOCS は何を測定する検査なのか, MAS は何を測定する検査なのか，という点の方が重要である。もちろん，WAIS-IV の得点が示される問 62 や，MMSE の得点が示される問 153 といったように，検査結果に関する問題が全く出題されていないわけではない。しかし，上記 2 問についても，基礎的な理解で十分に対応できる。「検査のカットオフ値と対象年齢」に必死になる時代は，終わりを告げたといっても良いのではないだろうか。

なお，2022 年 2 月にウェクスラー式検査の最新版 WISC-V の日本語版が発売されたが，第 5 回試験に引き続き，第 6 回試験でも WISC-IV として出題された。

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

B. 介入・技法に関する出題

介入・技法は大項目⑮に該当する。第 2 回・第 3 回試験では出題数が少なかったが，第 4 回試験以降，あてはまる介入・技法を 5 つの選択肢の中から選ぶ問題が多くなり，第 6 回試験でも同様の出題が多く見られた。過去の試験との比較は，以下の表 15 の通りである。

表 15　問題文・選択肢中に介入・技法の名称が示された回数

第 2 回試験	第 3 回試験	第 4 回試験	第 5 回試験	第 6 回試験
31 回	32 回	51 回	44 回	60 回

そして，第 6 回試験で出題された技法をまとめたものが，以下の表 16 である。

表 16　第 6 回試験で出題された介入・技法に関する用語

回数	用語名
2 回	**認知行動療法，コンサルテーション，セルフ・モニタリング，**ポジティブ・アクション
1 回	**初回面接（インテーク面接），心理教育，ソーシャル・スキルズ・トレーニング(SST)，リラクセーション法，自律訓練法，トークン・エコノミー法，漸進的筋弛緩法，司法面接，アウトリーチ，森田療法，ピアサポート，モデリング，ジョイニング，フォーカシング，構成的グループエンカウンター，ゲシュタルト療法，エクスポージャー，EMDR，**認知再構成法，スモールステップ，自己教示訓練法，行動実験，危機介入，リフレーミング，フェルトセンス，パーソン・センタード・ケア，認知療法，デブリーフィング，精神分析療法，感情制御，家族療法，エンパワメント，アドヒアランス，ストレス免疫訓練，サイコロジカル・リカバリー・スキル，ゼロトレランス，セルフコントロール，ハームリダクション，リスクマネジメント，リスクコミュニケーション，治療的アセスメント，チェイニング，フェイディング，レスポンスコスト，刺激制御法，睡眠制限法，イン・ケア，アドミッション・ケア，新エンゼルプラン，コンプライアンス，ビデオ・フィードバック，注意シフト・トレーニング

※**太字**の用語は，今回の試験も含め，累計 3 回以上の出題となる用語。
※色がついている用語は，今回の試験で初出となった用語。

©2023 KEI Advanced, Inc.　無断転載転用禁止

表 16 を見ると，初出の用語が意外と多いことがわかる。受験生にとっては，こんなに初出の用語があったのか，と驚かれるかもしれない。しかし，以下の問 92 を見てみよう。

問 92　B. F. Skinner の行動理論に基づく介入で，ポイントを貯めることで行動を強化する技法として，適切なものを 1 つ選べ。
①　三項随伴性　　②　チェイニング　　③　フェイディング
④　レスポンスコスト　　⑤　トークンエコノミー

正解である「⑤トークンエコノミー」は行動療法の基礎的な知識で選択することができる。裏を返せば「②チェイニング」「③フェイディング」などを良く分かっていなくても，本問題は正解が可能である。この問 92 に限らず，第 6 回試験において初出の用語は正解ではないことが多かったため，そこまで受験生の負担にはならなかったと思われる。

とはいえ，初出の用語で正解の選択肢になっているものもある。特に本分析で注目したい用語が，問 25 で登場したハームリダクションである。

「ダメ！ゼッタイ！」のフレーズで知られるように，従来，依存症に対しては，完全に断つことの重要性が強調されてきた（これは，選択肢①のゼロトレランスが該当する）。しかし，依存症者が依存性物質を完全に断つことは極めて難しい。その結果，完全に断つことができなかった罪悪感などから，支援をキャンセルしたり，問題を隠してしまう傾向が見られたりして，問題がかえって悪化してしまうケースが報告されるようになった。そこで近年は，最初から完全に断つことを目指すのではなく，依存性物質がもたらす心身や社会生活への悪影響を少しずつ緩和していくことを目的とするハームリダクションという概念が注目されるようになっている。

このように，公認心理師試験は，近年注目されている支援や概念が登場することがある。思えば第 1 回試験の問 1 は，サイコロジカル・ファーストエイドに関する出題であった。被災支援において近年求められているこの用語から，この試験は始まったのだ。そしてこの出題は，サイコロジカル・ファーストエイドの概念が世に広まる，確かなきっかけの 1 つになったはずだろう。このような観点から，公認心理師試験は，最新の知見を得るための機会としても機能することも期待したい。

（参考）問 25　アルコール依存症者の支援において，最初から断酒を目指すのではなく，飲酒がもたらす心身や社会生活への悪影響の緩和を目的とする方法として，最も適切なものを 1 つ選べ。
①　ゼロトレランス　　②　セルフコントロール　　③　ハームリダクション
④　リスクマネジメント　　⑤　リスクコミュニケーション

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

C. 障害・疾患・症状に関する出題

障害・疾患・症状は大項目㉑・㉒に該当する。第 6 回試験で出題された障害・疾患・症状に関する用語をまとめたものが以下の表 17 である。

表 17　第 6 回試験で出題された障害・疾患・症状に関する用語

回数	用語名
5 回	**うつ病（うつ状態・抑うつ），統合失調症**
4 回	**認知症，不眠，感染症**
3 回	**知的障害，強迫症**
2 回	**発達障害，心的外傷後ストレス障害，Lewy 小体型認知症，社交不安症，境界性パーソナリティ障害，過敏性腸症候群，パニック症，適応障害，バーンアウト，急性ストレス障害**
1 回	（※ 1 回のみ出題の用語は，過去の試験で出題があった用語のみ掲載） **Alzheimer 型認知症，自閉スペクトラム症，注意欠如多動症（AD/HD），アルコール依存，前頭側頭型認知症，反応性アタッチメント障害，神経性やせ症，がん，高次脳機能障害，常同行動，分離不安症，下痢，正常圧水頭症，全般不安症，アレキシサイミア，気分障害，肥満，解離性同一症，**希死念慮，身体症状症，脱抑制型対人交流障害，無気力，パーキンソン症状，パーソナリティ障害，物盗られ妄想，過眠，広場恐怖，失語，失行，脳血管障害，反社会性パーソナリティ障害

※**太字**の用語は，今回の試験も含め，累計 3 回以上の出題となる用語。

※問題文や選択肢中に明記されている用語のみをまとめている。例えば，事例文の内容が明らかに「うつ」が疑われる内容であったとしても，事例文または選択肢の中に「うつ」という言葉が出て来なければ回数にはカウントしていない。
※事例文と選択肢の両方に「うつ」という言葉が出てくるなど，同じ問題で複数回示されている場合は，それらをまとめて 1 回分としてカウントしている。

特に第 6 回試験では，以下の問 60 のように，事例文から予想される障害・疾患・症状を選ぶ問題が非常に多く見られた。

問 60　25 歳の女性 A，会社員。仕事に集中できないことが続き，職場の相談室を訪れ，公認心理師 B が面接した。（中略）

DSM-5 に基づく A の病態の理解として，最も適切なものを 1 つ選べ。

① 気分循環性障害　② 急性ストレス障害　③ うつ病／大うつ病性障害
④ 心的外傷後ストレス障害　⑤ 持続性抑うつ障害(気分変調症)

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

特に「DSM-5 に基づく A の病態の理解として，最も適切なものを 1 つ選べ。」という問いかけ文は第 6 回試験を代表するものとなっており，この問いかけ文と全く同じ文章が，問 60，問 61，問 64，問 65，問 139，問 140 の計 6 回（！）登場した。さらに，上記の問いかけ文ではないものの，類似した問題は他にもあった（問 68）。

このような問題を解くためには，ただ障害・疾患・症状の名前を知っているだけでなく，その症状・障害がどのような特徴を持っているのか，具体的な臨床像と共にイメージできることが必要となる。また，精神疾患の名称は基本的に DSM-5 基準でおさえておくことが重要となるだろう。

なお，これまで多く出題されている**うつ病，統合失調症，認知症，発達障害，Alzheimer 型認知症，知的障害，自閉スペクトラム症，不眠（睡眠障害），強迫症，心的外傷後ストレス障害（PTSD），注意欠如多動症（AD/HD）**は，もれなく第 6 回試験でも（扱われ方の程度の差はあれ）出題されていた。

対して，従来の試験で多く出題されていた**糖尿病**の出題が，今回はなかった。また，従来の試験で多く出題されていた**精神疾患に該当する向精神薬の選択**，そして**向精神薬がもたらす副作用**に関する内容も，今回の試験に関しては出題されなかった。

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

D. 法律・制度・施設に関する出題

法律・制度・施設は大項目㉓が該当する。第６回試験で出題された法律・制度・施設をまとめたものが以下の表 18 である。

表 18　第６回試験で出題された法律・制度・施設

回数	用語名
８回	**児童相談所**
３回	**保護観察，家庭裁判所，児童福祉施設**
２回	**個人情報保護（秘密保持義務），要保護児童対策地域協議会，学校保健安全法，少年鑑別所，生活保護，通級指導教室**
１回	（※１回のみ出題の用語は，過去の試験で出題があった用語のみ掲載） **公認心理師法，児童養護施設，ストレスチェック制度，特別支援教育，医療保護入院，医療観察法，応急入院，措置入院，労働基準法，緊急措置入院，地域包括支援センター，任意入院，裁判員裁判，成年後見制度，労働安全衛生法，**地域ケア会議，特別改善指導，一時保護所，仮釈放，労災，社会復帰調整官，特定健康診査，乳児家庭全戸訪問事業，放課後等デイサービス

※**太字**の用語は，今回の試験も含め，累計３回以上の出題となる用語。

第６回試験に限った話ではないが，法律・制度・施設に関しては，難易度が高い問題が多く，点数を稼ぐことが難しい。例えば今回の試験において，大項目㉓に割り当てられた 12 問は，難易度Ａ・５問，難易度Ｂ・６問，難易度Ｃ・１問，という構成であった。

さらに，法律・制度・施設の数は膨大で，勉強しようと思うと，途方も無い量をこなさなければならなくなる。そのため，公認心理師試験を受験する上では，法律・制度・施設の問題は「わかる範囲で解く」ことは大切だが，深追いしすぎないことも大切だろう。

なお，これまでの試験で多く出題されていたにも関わらず第５回試験で出題のなかった**公認心理師法**および**医療観察法**は，第６回試験で出題されていた。

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

７．総評

今年の公認心理師試験の受験生は，多くが心理系大学院を修了したばかりの元大学院生で，１月に修論提出，２月に修論発表，３月に大学院修了，４月に新しい環境での生活が始まり，５月に公認心理師試験…という，最も過酷と言っても良いスケジュールの中で準備を進めなければならなかった。

試験の準備が進んでいない中で，修論を仕上げていく。
試験に合格できるか分からない中で，大学院の恩師と仲間に別れを告げる。
試験のことも覚えきれていないのに，新しい仕事の内容を覚えなければならない。

目の前のやるべきことに翻弄されて，５月に待ち受ける試験の準備が進まない。現任者ルートがあった頃よりも受験生が減り，必然的に情報の流通も少なくなる。５月に試験があると分かっていても実感がわかない。何もかもが中途半端な中で，いつの間にか試験日が近づいていた。そんな受験生も多くいたのではないだろうか。

もちろん，上記に挙げたことは想像にすぎず，個々に様々な状況があるだろう。より悲観的な者もいれば，より達観した姿勢で試験に臨んだ者もいるだろう。“試験日を２ヶ月ずつ前倒しにして，最終的には院に在籍している間に，公認心理師試験を受験できるようになる”…こんな話は，今年受験するみなさんにとっては関係のない話だ。このような「おとなの理屈」に巻き込まれながら，みなさんは試験日を迎えた。

まずは，今年の試験を戦い抜いた受験生のみなさんに，最大限の敬意を送りたい。
そして，どうだろう。第６回試験が終わった今，みなさんは，どのような気持ちだろうか。試験結果の是非に関わらず，おそらく，長らく刺さっていた棘のようなものが抜けたような感覚ではないだろうか。もちろん合否が出るまでは落ち着かないだろうし，10 月には臨床心理士試験が待っている人もいるだろう。今ほどではないにせよ，落ち着かない日々は，もうちょっと続くかもしれない。

でも，そんなみなさんにこそ，ぜひ伝えたいことがある。
それは，こころを「味わう」こと。そして，こころを「楽しむ」こと。

食事を例に挙げると分かりやすいだろう。別の何かをしながらとる食事。忙しい中で無理やり済ませる食事。味わう余裕もないし，楽しむ余裕もない。食感や味わい，食材の彩りや香り，その時間を他人と共有する喜びや幸せ。本来ならば，そこに「ある」はずで，たくさんの「こころ」を動かしてくれるはずなのに。

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

どこかで，「こころ」を見失っていないだろうか。
こころの専門家を目指していたはずなのに。

だからこそ，改めて「こころ」を味わってほしいのだ。楽しんでほしいのだ。
クライエントのこころと，自分自身のこころの交流を。頼れる先輩や信頼できる仲間たちとの関わりを。心理学の書籍や論文，学会や研修会で出会う，新たな世界と自分にない視点を。心理学を通じて出会った様々な「こころ」を振り返り，そしてこれから出会う，たくさんの「こころ」を，味わい，楽しんで欲しいのだ。

そして願わくば。
公認心理師試験で合格してからも，第７回・第８回と，公認心理師試験でどんな問題が出題されていたか，ぜひ目を通して欲しい。合格した後で見る公認心理師試験は，受験生の時とは全く違って見えることだろう。公認心理師試験には毎年，今年の問 25「ハームリダクション」のように，新たな概念を扱った問題がある。このような問題を通じて，新たな視点を手に入れられるかもしれない。医学・薬学の問題に触れ，法制度の問題に触れ，生物・心理・社会モデルを再確認できるかもしれない。公認心理師の職責の問題に触れ，公認心理師としてどうあるべきか，襟を正すことができるかもしれない。受験生の時は「なんでこんな問題を出題するのだろう」と思っていた，そんな問題の出題意図が分かるかもしれない。

合格したあとなら，公認心理師試験もきっと，味わい，楽しむことができる。みなさんにとっては思い出したくない試験かもしれないが，少し時間が経てば，きっと大丈夫。ぜひまた，公認心理師試験に会いに来て欲しい。

そしてもちろん，今回の試験で残念な結果になってしまった人は，否応なしにこの試験とまた向き合わなければならない。そんな人にこそ，ぜひ河合塾 KALS の講座を頼って欲しい。これまでの公認心理師試験対策のノウハウを活かした充実の講座編成は，みなさんに間違いなく合格への道筋を示すことができるだろう。定期的な情報提供や，メール質問書サービスを用いた個別対応なども実施していく。このことは，これまでも，これからも変わらない。河合塾ならではの「講義力×情報力」に，ぜひご期待頂きたい。

2023 年度の分析速報は，以上である。かなりの長文となってしまったが，最後まで読んで頂いたことに心より感謝したい。みなさんの今後に，幸あらんことを。

2023 年 5 月 18 日　河合塾 KALS

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

８．巻末資料　第６回公認心理師国家試験　各設問分析

BP…ブループリント大項目の番号。

難度…問題の難易度がどの程度であったか。

- 難易度Ａ…５つの中から完全にランダムで選ばざるを得ない難問。
- 難易度Ｂ…正解の選択肢を２つまたは３つまで絞り込むことが出来る問題。
- 難易度Ｃ…比較的正解を１つに絞り込みやすい問題。

解答形式…マークシートを塗りつぶす内容はどうであったか。

- ５肢択一　…５つの選択肢から１つを選ぶ形式。
- ４肢択一　…４つの選択肢から１つを選ぶ形式。
- ５肢択二　…５つの選択肢から２つを選ぶ形式。

選択内容…どのような内容を正解として答えるか。

- 適切選択…「最も適切なものを選びなさい」などの形式。
- 不適切選択…「最も不適切なものを選びなさい」などの形式。

問	BP	問題内容	難度	解答形式	選択内容
1	①	秘密保持義務	C	５肢択一	適切選択
2	①	自殺予防の効果	B	５肢択一	適切選択
3	③	児童相談所で社会診断を行う職種	B	５肢択一	適切選択
4	⑦	記憶に関する用語	C	５肢択一	適切選択
5	⑤	探索的因子分析における因子数決定の基準	B	５肢択一	適切選択
6	⑥	心理学実験に関連する用語	B	５肢択一	適切選択
7	⑦	時間知覚	A	５肢択一	適切選択
8	⑦	色覚多様性	A	５肢択一	適切選択
9	⑧	学習の転移の具体例	B	５肢択一	適切選択
10	⑨	ポジティブ感情	B	５肢択一	適切選択
11	⑩	迷走神経反射	B	５肢択一	適切選択
12	⑪	原因帰属に関する用語	C	５肢択一	適切選択
13	⑫	知能	C	５肢択一	適切選択
14	⑫	鏡像認知課題を通して把握される心理的特質	B	５肢択一	適切選択
15	⑫	高齢期に関する心理学理論	B	５肢択一	適切選択
16	⑲	幼児又は児童への司法面接	C	５肢択一	適切選択
17	⑭	自閉スペクトラム症の診断用評価尺度	B	５肢択一	適切選択
18	⑮	行動変容や成長を図る集団的な取組	B	５肢択一	適切選択
19	④	対象関係論	C	５肢択一	適切選択

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

問	BP	問題内容	難度	解答形式	選択内容
20	⑮	フォーカシング	C	5肢択一	適切選択
21	⑭	強迫症が疑われる成人に用いる心理検査	C	5肢択一	適切選択
22	㉑	閉経の過程で血中濃度が上昇するホルモン	A	5肢択一	適切選択
23	⑮	認知行動療法	C	5肢択一	適切選択
24	⑯	慢性期の統合失調症患者に対する心理的支援	C	5肢択一	適切選択
25	⑯	アルコール依存症者の支援	B	5肢択一	適切選択
26	⑰	ノーマライゼーション	B	5肢択一	適切選択
27	⑰	ポピュレーションアプローチの具体例	B	5肢択一	適切選択
28	⑱	学習効果に関連する用語	C	5肢択一	適切選択
29	⑱	学習方略	B	5肢択一	適切選択
30	⑭	心理検査	C	5肢択一	適切選択
31	⑲	医療観察制度	A	5肢択一	適切選択
32	㉑	脂肪の分解を助ける消化液	A	5肢択一	適切選択
33	㉑	発熱時に起こる身体の変化	B	5肢択一	適切選択
34	㉑	B型肝炎ウイルスの感染経路	B	5肢択一	適切選択
35	㉒	医師と患者の関係に関する用語	C	5肢択一	適切選択
36	㉒	神経性やせ症	B	5肢択一	適切選択
37	㉒	薬物による有害事象が増加する原因	B	5肢択一	適切選択
38	㉓	精神病床の特徴	A	5肢択一	適切選択
39	㉓	教育委員会が設置する機関	C	5肢択一	適切選択
40	㉓	労働安全衛生法	A	5肢択一	適切選択
41	⑨	共感性の性質や働き	C	5肢択一	不適切選択
42	⑭	治療的アセスメント	B	5肢択一	不適切選択
43	⑫	Lewy小体型認知症の症状や特徴	B	5肢択一	不適切選択
44	⑰	児童相談所の対応	B	5肢択一	不適切選択
45	㉓	精神障害の労災認定	B	5肢択一	不適切選択
46	⑳	人事考課における評価指標	C	5肢択一	不適切選択
47	㉓	更生保護	B	5肢択一	不適切選択
48	③	学校における公認心理師の行動	C	4肢択一	適切選択
49	⑳	働き方改革	B	4肢択一	適切選択
50	㉔	心理的支援に関わる概念化や理論化	C	4肢択一	適切選択
51	⑱	教職員のバーンアウトの予防	C	4肢択一	不適切選択
52	①	個人情報保護法	B	5肢択二	適切選択

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

問	BP	問題内容	難度	解答形式	選択内容
53	④	人間性アプローチに関係が深い人物	C	5 肢択二	適切選択
54	⑮	ゲシュタルト療法の特徴	C	5 肢択二	適切選択
55	⑨	C.R.Cloninger の気質－性格理論	B	5 肢択二	適切選択
56	⑰	児童相談所における虐待相談対応	A	5 肢択二	適切選択
57	⑲	少年鑑別所で行われる業務	B	5 肢択二	適切選択
58	㉓	労働基準法	A	5 肢択二	適切選択
59	⑫	11 か月女児・変化の背景に想定される心的発達	B	5 肢択一	適切選択
60	㉒	25 歳女性・DSM-5 に基づく病態の理解	B	5 肢択一	適切選択
61	㉒	24 歳女性・DSM-5 に基づく病態の理解	B	5 肢択一	適切選択
62	⑭	17 歳男子・WAIS-IV のフィードバック	C	5 肢択一	適切選択
63	⑮	32 歳女性・行動を説明する精神分析学の概念	C	5 肢択一	適切選択
64	㉒	26 歳女性・DSM-5 に基づく病態の理解	C	5 肢択一	適切選択
65	㉒	65 歳男性・DSM-5 に基づく病態の理解	B	5 肢択一	適切選択
66	⑯	78 歳女性・地域包括支援センターの支援	C	5 肢択一	適切選択
67	⑰	14 歳女子・生活保護と学業不振	B	5 肢択一	適切選択
68	⑰	72 歳男性・状況から考えられる病態の理解	C	5 肢択一	適切選択
69	⑱	中学校の相談室の状況改善のための対応	C	5 肢択一	適切選択
70	⑲	15 歳男子・再非行を説明する理論	C	5 肢択一	適切選択
71	㉓	21 歳女性・精神科病棟の入院形態	B	5 肢択一	適切選択
72	⑯	40 歳男性・行動変容ステージに基づく初期対応	B	5 肢択一	不適切選択
73	⑮	45 歳男性・認知療法に基づいた支援	C	5 肢択一	不適切選択
74	⑱	18 歳男性・検討すべき支援内容	C	4 肢択一	適切選択
75	⑱	14 歳女子・不登校に対する対応	B	5 肢択二	適切選択
76	⑱	15 歳女子・不登校傾向にある生徒への対応	C	5 肢択二	適切選択
77	⑳	45 歳男性・従業員向けメンタルヘルス研修	B	5 肢択二	適切選択
78	⑫	J.Bowlby の提唱するモーニングの第一期	B	5 肢択一	適切選択
79	①	説明と合意	C	5 肢択一	適切選択
80	④	バランス理論に最も関係が深い人物	B	5 肢択一	適切選択
81	⑤	代理回答や記入ミスが起こりくい調査方法	B	5 肢択一	適切選択
82	⑤	外れ値の影響を受けにくい指標	C	5 肢択一	適切選択
83	⑤	第 3 の変数の影響を除いて求められる相関係数	B	5 肢択一	適切選択
84	⑦	自伝的記憶	B	5 肢択一	適切選択
85	⑧	学習における消去	C	5 肢択一	適切選択

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

問	BP	問題内容	難度	解答形式	選択内容
86	⑧	文や文章の認知処理におけるスキーマの活性化	A	5肢択一	適切選択
87	⑨	自らの行動や環境の統制に関する理論	B	5肢択一	適切選択
88	⑩	ベンゾジアゼピン系抗不安薬が結合する受容体	A	5肢択一	適切選択
89	⑩	高次脳機能障害の原因	B	5肢択一	適切選択
90	⑪	環境からの影響と個人の遂行行動	B	5肢択一	適切選択
91	⑪	固定観念を説明する概念	C	5肢択一	適切選択
92	⑮	B.F.Skinner の行動理論に基づく介入	C	5肢択一	適切選択
93	⑬	特別支援教育	B	5肢択一	適切選択
94	⑭	WISC-IV	B	5肢択一	適切選択
95	⑭	高齢者を対象とした認知機能の評価	C	5肢択一	適切選択
96	⑪	家族療法に関する用語	B	5肢択一	適切選択
97	⑮	地域支援における間接的支援	C	5肢択一	適切選択
98	⑮	事例研究における個人情報の記載	C	5肢択一	適切選択
99	⑭	日常生活上の遂行機能を評価する心理検査	B	5肢択一	適切選択
100	⑮	該当する防衛機制の選択	C	5肢択一	適切選択
101	⑯	不眠を訴える患者に対する指導方法	B	5肢択一	適切選択
102	⑭	虐待によるトラウマの影響に関する心理検査	B	5肢択一	適切選択
103	⑰	児童福祉施設に措置される際の支援	B	5肢択一	適切選択
104	⑰	成年後見人の職務	B	5肢択一	適切選択
105	⑱	効果的に学習する方法	C	5肢択一	適切選択
106	⑱	教育評価	C	5肢択一	適切選択
107	⑳	労働安全衛生法に基づく管理担当者	B	5肢択一	適切選択
108	㉑	酸素含有量が最も少ない血液が流れる血管	B	5肢択一	適切選択
109	㉑	機能性消化管疾患	B	5肢択一	適切選択
110	㉒	パーソナリティ障害	C	5肢択一	適切選択
111	㉒	うつ病の症状	C	5肢択一	適切選択
112	㉒	薬物の代謝と腸管への排出に関わる臓器	A	5肢択一	適切選択
113	㉓	健康増進法	A	5肢択一	適切選択
114	㉓	児童相談所における相談援助活動	A	5肢択一	適切選択
115	㉓	裁判員裁判	B	5肢択一	適切選択
116	②	スーパービジョン	C	5肢択一	不適切選択
117	⑭	TEG の自我状態	C	5肢択一	不適切選択
118	⑮	外来森田療法	B	5肢択一	不適切選択

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

問	BP	問題内容	難度	解答形式	選択内容
119	⑱	キャリア教育における基礎的・汎用的能力	A	5 肢択一	不適切選択
120	⑲	再犯要因のセントラルエイト	A	5 肢択一	不適切選択
121	㉑	メタボリックシンドローム	C	5 肢択一	不適切選択
122	㉓	障害者虐待防止法	B	5 肢択一	不適切選択
123	㉓	学校保健安全法	B	5 肢択一	不適切選択
124	⑫	注意欠如多動症	C	4 肢択一	適切選択
125	⑬	障害者の雇用	B	4 肢択一	適切選択
126	⑮	子どもの心理療法を行う際の対応	B	4 肢択一	適切選択
127	⑮	心理療法の効果研究	B	4 肢択一	適切選択
128	⑱	学校文化	B	4 肢択一	適切選択
129	⑱	心理教育的援助サービスの一次的援助	C	4 肢択一	適切選択
130	①	公認心理師法	C	5 肢択二	適切選択
131	⑯	認知症初期集中支援チーム	B	5 肢択二	適切選択
132	⑳	ハラスメント相談室での初回面接	C	5 肢択二	適切選択
133	⑰	地域ケア会議	C	5 肢択二	適切選択
134	⑱	学校における危機管理・緊急支援	C	5 肢択二	適切選択
135	⑲	保護観察において保護司が担う役割	B	5 肢択二	適切選択
136	⑥	要因計画の選択	B	5 肢択一	適切選択
137	⑪	20 歳女性・原因帰属のモデル	B	5 肢択一	適切選択
138	⑯	47 歳女性・中年期危機	C	5 肢択一	適切選択
139	㉒	18 歳男性・DSM-5 に基づく病態の理解	C	5 肢択一	適切選択
140	㉒	28 歳女性・DSM-5 に基づく病態の理解	C	5 肢択一	適切選択
141	⑭	50 歳男性・病態評価のための心理検査	C	5 肢択一	適切選択
142	⑯	30 歳女性・産後ケアにおける対応	C	5 肢択一	適切選択
143	⑰	３歳男児・療育支援を担当する機関・サービス	B	5 肢択一	適切選択
144	⑯	82 歳女性・認知症疾患医療センターの対応	B	5 肢択一	適切選択
145	⑱	15 歳男子・認知バイアス	C	5 肢択一	適切選択
146	⑳	24 歳男性・新卒社員の悩みを表す用語	B	5 肢択一	適切選択
147	⑳	中堅製造業・活力を得られる職場づくり	B	5 肢択一	適切選択
148	⑮	20 歳男性・認知行動療法	C	5 肢択一	不適切選択
149	⑰	１歳４か月女児・虐待が疑われる過程への対応	B	5 肢択一	不適切選択
150	⑱	13 歳男子・学校の対応	B	5 肢択一	不適切選択
151	⑯	45 歳女性・認知面の特徴	B	4 肢択一	適切選択

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止

問	BP	問題内容	難度	解答形式	選択内容
152	⑱	17 歳男子・初回の対応方針	B	4 肢択一	適切選択
153	⑭	67 歳女性・提案すべき心理検査	B	5 肢択二	適切選択
154	⑲	35 歳男性・動的リスク要因	B	5 肢択二	適切選択

※表中の難易度や分類などは，河合塾 KALS の独自の判断によるものです。個々の理解や価値観により，難易度や分類は異なります。あくまで参考に留めて頂きたいと思います。
※本資料の無断転載・無断転用を禁じます。

©2023 KEI Advanced, Inc. 無断転載転用禁止